

成年年齢の引き下げに伴い、18歳の高校3年生が、一人で有効な契約ができるようになった。一方、グローバル化、情報化など社会の変化は激しい。このような社会的背景に対して、自分事として考えていくため、「住生活」と「消費生活」を関連付けた単元で、『わたしたちは、どう自立して生きるか？』を考えさせた。そして、自分が消費生活で大切だと考えることを、成年を迎える先輩に伝えるリーフレットを作成することを通して、さらに生徒の理解を深めた実践を紹介する。

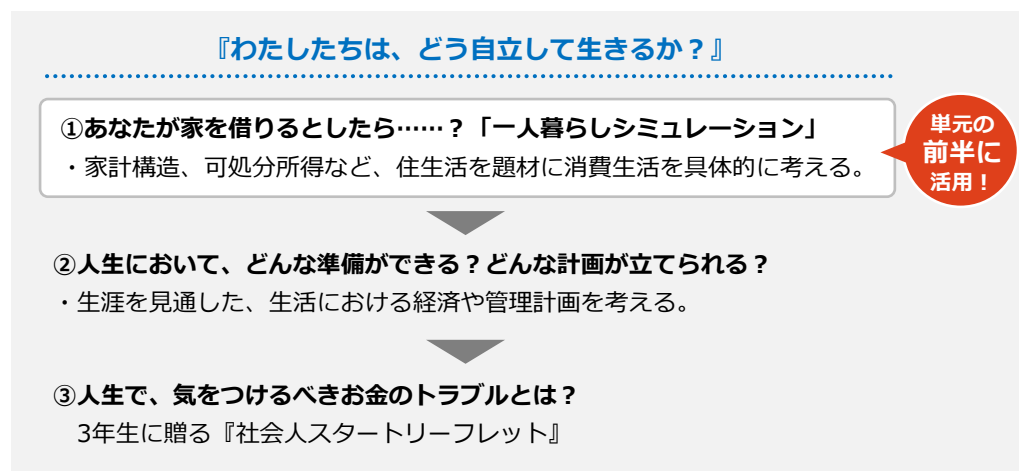
POINT 1 実社会のリソースを活用

実際の住宅情報誌やネット検索で、自分のこだわりから考える

あなたが家を借りるとしたら……？一人暮らしシミュレーション

「住生活」と「消費生活」を関連付けた単元『わたしたちは、どう自立して生きるか？』を高校1年生で実施。単元は、多くの生徒が卒業時に迫られる「一人暮らしする？しない？」という問いかけから、さらに「一人暮らしを始める時に必要なものは？」と問いかけ、自分の問題として考えさせながら進めていく。特に、前半の山場である「あなたが家を借りるとしたら……？一人暮らしシミュレーション」を考える場面では、自分が「一人暮らしの住生活」をするという具体的な場面を設定し、地域の住宅情報誌やチラシを活用して考えさせることで、生徒の興味を高め、主体的な学習参加を誘いつつ、より現実的な生活における経済の管理や計画を考えさせることをねらう。

【学習の流れ】



単元の
前半に
活用！

実践者に聞く！エピソード紹介

●本物から学ぶ、本物の学び

「どこに住む？」「駅や商業施設に近いところは家賃が高い！」。本物の情報を扱うだけで、生徒は盛り上がります。家具・生活日用品などは、ネット検索させると、自分のこだわりだけで選んでは、家計が成り立たないことを本当に実感するようで、その後の生活における経済や管理計画を自分の問題として考えさせることにつながりました。



教員が準備した住宅情報誌など

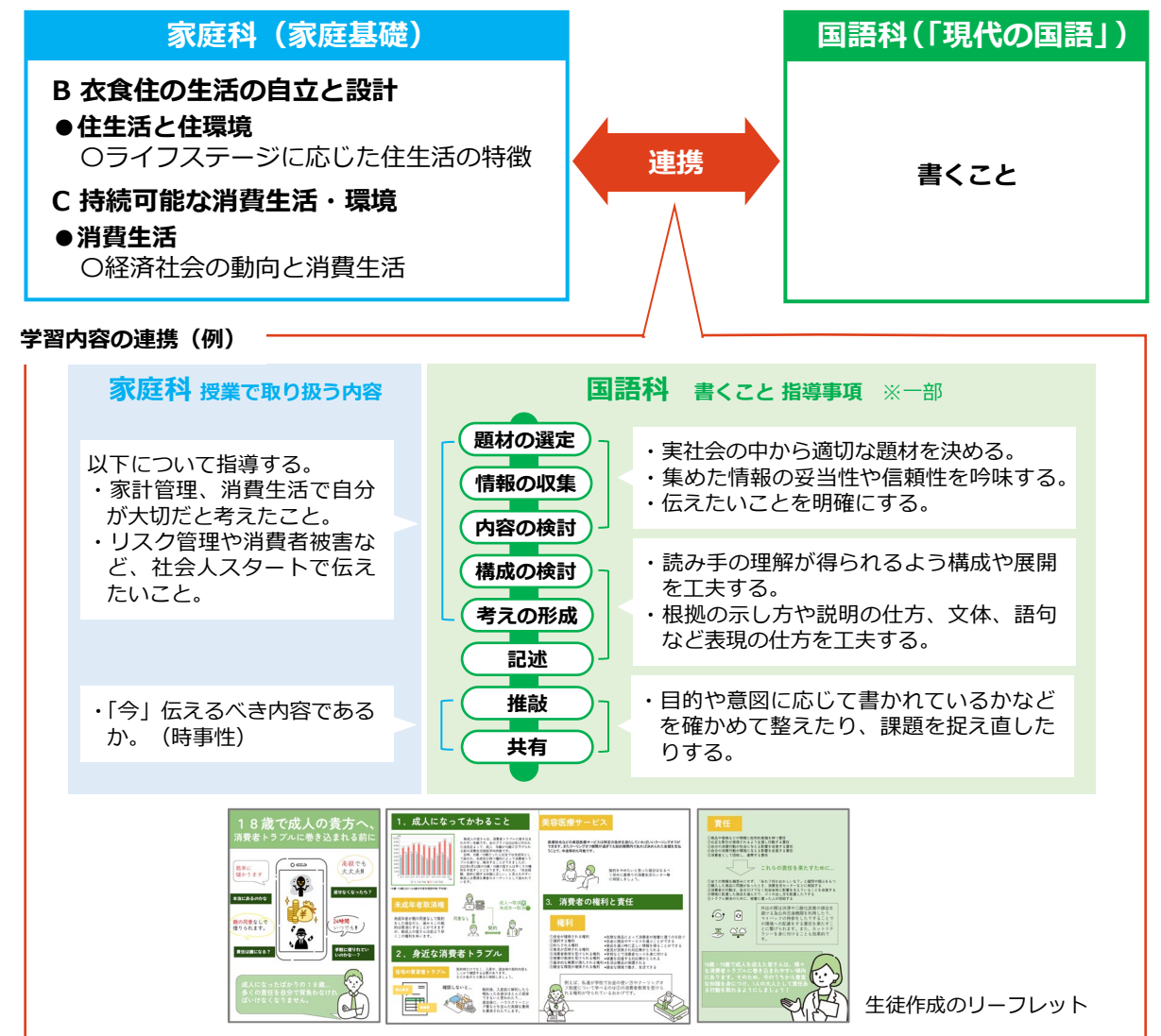
POINT 2

他者に伝える活動を通して、理解を深める

単元のまとめとして、先輩向けに消費生活に関するリーフレットを作成

学んだからこそ、今、伝えたい『社会人スタートリーフレット』

単元のまとめとして、これまで学んできた内容をもとに「卒業後に一人暮らしを始める3年生」という具体的にイメージできる相手を対象に、「今、伝えるべきこと」を啓発するリーフレットを作成することとした。これまで学習した内容について、読み手に伝わるようにリーフレットに落とし込んでいく活動を通して、生徒の理解をより深めることができた。なお、リーフレット作成の際に、国語科の「書くこと（構成の検討や、記述、推敲など）」に関する学習を活かせるように、年間指導計画を立案した。



単元計画
 『わたしたちは、どう自立して生きるか？』

■単元の目標

【知識及び技能】

自立した生活を営むために必要な家計の構造や、家計管理、消費生活の現状やトラブル・問題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。

【思考力、判断力、表現力等】

自立した生活を営むために必要な情報を収集・整理し、消費生活の現状について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

自立した生活を営むために、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふりかえって改善したりして、自分や身近な人の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

■単元計画

単元は、住生活の内容から始める。高校卒業後に「一人暮らしする？しない？」の問いで、生徒は自分事として考えていく。

シミュレーションには、実際のチラシ・住宅情報誌を活用。立地と移動費（電車・バス代）なども含めた家計を自分なりに考えることで、消費生活の内容にも踏み込む。

副教材『人生すごろく』を活用し、初任給でやりくりすると、どうしても足りなくなる場合もある可能性を実感させる。

単元の学習のまとめをもとに、自分なりに大切だと思ったことを「3年生に贈る『社会人スタートリーフレット』」としてまとめる。

時数	学習内容
	●単元を通して考える問いの提示 『わたしたちは、どう自立して生きるか？』
4	●一人暮らしする？しない？ ・一人暮らしの自由と責任 一人暮らしを始める時に必要なものは？ ・ライフステージに応じた住生活の特徴
	あなたが家を借りるとしたら……？ ●一人暮らしシミュレーション ・家計の構造、・可処分所得、非消費支出
4	人生において、どんな準備ができる？ どんな計画が立てられる？ ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画 お金が足りなくなったらどうする？ ・多重債務・クレジットカードの仕組み
	●あなたはどんな人生を考える？『人生すごろく』 ・主体的な資金管理の考え方、経済計画の重要性 ・ライフステージ、リスク管理、社会保障制度
2	人生で、気をつけるべきお金のトラブルとは？ ・キャッシュレス決済、家計管理の複雑化 ・電子マネー、仮想通過、悪質商法、消費者被害 ふりかえりレポート
2	●3年生に贈る『社会人スタートリーフレット』 ★国語科と連携 ・リーフレット制作

本時の授業展開

実際の住宅情報誌やチラシ、生徒が自身でネット検索をしながら、一人暮らしをシミュレーションしていく、住生活と消費生活の学習内容を関連付けた授業。生活設計ワークが、必要なお金を計算して過不足を確認することに終始しないよう、「自分の生活を自分でつくる」意識を大切にしながら、他者と効果的に交流させることで、優先順位など選択・判断する力を高めていくことをめざす。

■本時のねらい

- 生活に必要なお金について具体的に理解し、生活設計のためには、適切な選択・判断が必要であることを捉える。

■本時の展開

(50分×2コマ)

過程	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	●あなたが家を借りるとしたら……？ ○生活をし始めるとしたら、必要になるものは？ ・条件を示す ☑家族からの金銭的援助は受けない ☑社宅や寮ではなく、賃貸 ☑平均的な初任給でやっていく	・居住する都道府県の平均初任給や手取り、卒業後に多い進路先を紹介する。
展開 ① 45分	【ワーク】 ①住むところを決める ・自分の住まいをイメージする ・住宅情報誌から、物件を探す ・立地条件や設備、入居前に必要な諸経費を明らかにする ②家具や家電製品を買い揃える ・生活に必要な家具や家電製品、生活雑貨などをチラシやネット検索して考える ③立てた計画で足りるか計算する ・どのような計画を立てたかグループで話し合わせる	・会社への通勤は自転車として、通勤費は出費に含めないこととし、立地を検討させる。 ・本実践では、合計金額は25万円とした。
展開 ② 40分	【ワーク】 ①給与明細を確認する ・一か月の生活に使える金額を確認する ②生活に必要なお金を振り分ける ・項目は以下 ☑住居費 ※展開①で選んだもの ☑光熱・水道費 ☑食糧費 ☑被服費 ☑交通費 ☑情報関連通信費 ☑教育娯楽費 ☑保険医療費 ☑貯蓄 ☑その他 予備費	・本実践では、手取りが207,488円の資料を用いた。
まとめ 10分	○授業の内容をふりかえって心に残ったことを書こう	

平均初任給を示すと、多くの生徒は「結構ある」と感じる人が多い。

家庭生活については、自分が育ってきた家庭環境しか知らないので、「何を選んだか」「なぜ、それが必要なのか」を話し合わせることで、自分の優先順位を問い直すことができる。

必要なお金を計算していくと足りなくなる場合が多い。「足りなくなったら？」と投げかけ「借金」を引き出し、次の学習「金融」「消費者トラブル」につなぐ。

導入時には、「初任給は結構ある」と感じていたが、自分の生活のシミュレーションを通して、「足りなかった」と気付かせ、実社会との感覚のズレを自覚させていく。

本時の学習をふりかえり、生活における経済の管理や計画についての自分の考えの深まりを記述させる。